



共 育

今年、児童玄関前の巣で生まれたつばめの雛が早くも巣立っていきました。2週間ほどのあいだ親鳥のえさを待ってにぎやかにさえずっていたのですが、知らぬ間に巣の中から外に尾を向けて羽ばたきの練習を繰り返していました。

まさに「習う」の字のごとく、羽根の白いうちから何度も羽ばたく練習を繰り返し、自信をつけた後に全ての雛が飛び立っていきました。

<人権教育の視点から>

人権教育は、だれもが持っている「幸せ免許証」を大切にすることから。

瑞穂小学校の考える『人権教育』は、「だれもが幸せになる権利を持っていること。そして、自分の幸せと共に周りの人々の幸せを保障するために、どのようなことを大切にしなければいけないのか」について、個々の児童の発達段階に応じて、考える力を深めていくことだと考えています。

その第1歩として、全校に「幸せ免許証」のお話をしました。だれもが持っている幸せになる権利について、低学年にも分かるように説明しました。今後も折に触れ、身近な問題として人権感覚を養うための働きかけを続けていきます。



総合的な学習の時間 「羽咋幸せ向上委員会」羽咋市のみんなが幸せに暮らせる市にするには…

6年生は総合的な学習の時間に「羽咋市を今以上に幸せに暮らせる市にするにはどうすればいいか」をテーマに学習を進めています。6年保護者の皆さまにはアンケートにご協力いただきありがとうございました。



現段階では「環境」「自然」「福祉」「観光」「安全」の5つの

テーマに分かれ、それぞれの分野から現状を調べて、羽咋市のハッピー度を1～5の段階で考えました。

この後、5つの分野ごとに、関係する方々へ羽咋市の現状をリサーチしに出かけ、インタビューや現地見学を通して、自分たちの目や耳で確かめてくる予定です。



感謝シマット 本当にいるのかな？ 3～6年生が各学級で考えを出し合いました。



4年前から始まった「感謝シマット」。朝、学校に来たらず、「今日も一日お願いします。」の気持ちを込めて児童玄関前の感謝シマットの上でお辞儀をして登校します。そして、下校時も「今日一日、ありがとうございました。」と学校への感謝の気持ちを込めてマットの上でお辞儀をして下校します。これが瑞穂小学校の習慣です。ところが、最近本来の意味が徐々に薄れているのか、お辞儀が形式的になっている様子が見られます。マットも角がめくれ上がりリニューアルの時期にもなっていることから児童に感謝シマットの存続について問いかけたところ次のような意見が出されました。

<残した方がいい>

- ・今日も一日がんばるぞという気持ちになる(3年)
- ・一日お世話になるから(4年)
- ・毎日お世話になるから感謝する気持ちを大切にしたい(5年)
- ・続けたい。たまに適当にやってしまうこともあるけど、ちゃんと学校への感謝の思いを伝えたい(6年)
- ・マットがボロボロになるというのは感謝してきた証拠。受け継ぎたい(6年)

<いらない>

- ・感謝シマットを知らない(3年)
- ・感謝シマットの他にも伝えられる。例えばそうじとか(3年)
- ・心がこもっていない(4年)
- ・少しめんどくさい(4年)
- ・人が相手だとしやすいが、学校が相手だと気持ちが入らない(5年)

日々の生活の中で習慣化している活動を見直し、そこにどのような意義があるのか、また、先輩たちがどのような思いをもって取り組み始めたのか、それらを深く考えることは、とても大切だと思います。

友だちと学び合い鍛え合いながら自分を成長させてくれる学校に感謝する気持ちをもった人間に育てほしいとの願いを込め、伝統を継続させていってほしいと考えています。

通信機器等の使用について、保護者のみなさんとともに

6月15日(水)授業参観後の学級懇談会にはたくさんのお家の方にご参加いただきました。ありがとうございます。

さて、学級懇談会では、学年PTA委員会からの提案を受け、通信機器等の使用状況について話し合う機会を設定しました。社会的に携帯電話やタブレット、ゲーム機器等の通信機器の普及は目覚ましいものです。しかし、その危険性や児童にあたる影響については、大きな問題となっています。実際に様々な犯罪の原因になっているのも事実です。そんな中、羽咋市全体では、各ご家庭に子どもの通信機器使用の時間について、9時以降は使わせないようにという通知も配付し、ご協力をお願いしているところです。

本校でも、子どものネットトラブルについては、親子講演会や危険性をお知らせする資料等を配付し、周知を図ってきました。

この機会に、今一度、ご家庭でのルールについて話し合い、LINEのやり取りなどを起因とした人間関係のトラブル回避のためにも、保護者同士の協力体制を確立していただくようお願いいたします。